

# てんかんを 正しく理解

## 東区でフォーラム

市民フォーラム「てんかんを考える」(中国新聞社主催)が28日、広島市東区の県医師会館であった。患者や家族たち約250人が参加した。

てんかんは、脳神経細胞の過剰な活動で、けいれんなどを起こす疾患。広島大病院(南区)の飯田幸治(てんか

んセンター長は、脳の中で発作を引き起こす場所を切除する手術を紹介。石川暢恒センター長は「小児期の発症なら7〜8割は完治する」と強調した。

脳神経センター大田記念病院(福山市)脳神経内科の黒川勝己部長は「高齢者の場合、明らかでないけいれんがなため、認知症や脳卒中などに間違えられや

すい」と話した。

3人の医師は、参加者の質問に答える形で「発作時は慌てずに安全を確保してほしい」「疾患を周囲が正しく理解することが重要」などと指摘した。



参加者の質問  
に答える医師

中国新聞の許諾を得ています  
掲載日付 2018年10月29日